

令和 3 年度 栄東中学校入学試験問題

東大特待

〔国 語〕 (50 分)

受 験 番 号	
整 理 番 号	
氏 名	

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙の表紙を上にして、静かに待ちましょう。
2. 試験開始の合図があったら、**問題用紙**と**解答用紙**のどちらにも**受験番号**と**整理番号**と**氏名**を必ず記入してください。
3. 問題用紙は、表紙を除いて全部で22ページあります。ページ数を確認しましょう。
4. 答えは、すべて**解答用紙**に記入してください。
5. 印刷のはっきりしないところなど、質問事項があったら、だまって手をあげて
かんとく
監督の先生に聞きましょう。
6. 試験中、気分が悪くなった場合には、監督の先生に申し出てください。
7. 試験が終わったら、**問題用紙**と**解答用紙**は別々にして、**整理番号順**に監督の先生の指示にしたがって提出してください。

一 次の――線部のカタカナを漢字に直したときに、1～5の四字熟語の□に入る漢字と同じ漢字が使われているものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

1 天変地□

ア クライが高くなる。

エ 身をユダねる。

イ 食卓をカコむ。

オ ウツリゆく季節。

ウ コトなる意見。

2 朝令暮□

ア ねじをマワす。

エ 知人とアう。

イ とびらがヒラク。

オ ココロヨい返事。

ウ 態度をアラタめる。

3 異国□緒

ア 法律をサダメる。

エ 海外旅行がサカんだ。

イ 皿にノった料理。

オ 人にナサけをかける。

ウ ムし暑い日が続く。

4 因果応□

ア 恩にムクいる。

エ 七福神のタカラブネ。

イ 紙でツツむ。

オ 稚魚ちぎょを川にハナつ。

ウ 友人をタズねる。

5 失□千万

ア カタチを整える。

エ 体重をハかる。

イ 神仏をウヤマう。

オ 兄と得点をキソう。

ウ カルい足取り。

【二】 次の（ 1 ） ～ （ 8 ） に当てはまる最も適切な言葉をあとの語群から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、記号は一度ずつしか使いません。

- ・昔ながらの決まりきった（ 1 ）を打破する。
- ・相手に勝ちたいという（ 2 ）が感じられない。
- ・欲しい物があつて母にお小遣い（こづか）を（ 3 ）する。
- ・ひと言お願いしたいというので（ 4 ）を述べた。
- ・服薬しないなら病状の悪化は（ 5 ）だ。
- ・新聞記者から中学校の教師への（ 6 ）を決意した。
- ・祖父に留学費用を（ 7 ）してもらう。
- ・入試が終わったら海外旅行を（ 8 ）したい。

【語群】

ア	工面	イ	無心	ウ	所感	エ	気概 きがい
オ	転身	カ	必至	キ	満喫 まんきつ	ク	因習

三

次の（ 1 ）～（ 8 ）に当てはまる最も適切な言葉をあとの語群から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、記号は一度ずつしか使いません。

- ・貯金が少なくて（ 1 ）。
- ・先輩は（ 2 ）ができる。
- ・投資には（ 3 ）が付きものだ。
- ・昨日のけんかが二人の間に（ 4 ）として残っている。
- ・成功は間違いないと（ 5 ）。
- ・勝利に導く（ 6 ）を持っている。
- ・外交問題の解決には（ 7 ）能力が必要だ。
- ・入学式の（ 8 ）として人気歌手が登場した。

【語群】

ア	心遣い こころづかい	イ	心もとない	ウ	たかをくくる	エ	わだかまり
オ	コミュニケーション	カ	サプライズ	キ	ノウハウ	ク	リスク

〔四〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。字数指定のある問いは、句読点などの記号もすべて字数にふくみます。

科学研究の社会に対する役立ち方を考えてみましょう。

一つは科学・技術の効能について先に述べたように、それによって人間の生活が便利で効率的になり、生産力が増大し、人々の暮らしが健康的で豊かになるということです。特に技術は人間の生活に密着した人工物を製作することが本来の目標ですから、技術の効能がより大きくなるためには人々の生活により役立たねばなりません。そして、当然、技術の発達による効能が経済的利得と結びつくことが求められます。要するに、儲かるための技術開発であることが、一般に受け取られている「社会の役に立つ」という意味になります。先のニュートリノに対する質問も、ニュートリノが遠隔通信に使えるというようなことを期待したのだらうと思われるますが、科学・技術の研究はこのように役立つことが当然と通常は考えられているわけです。

しかし、「役立ち方」はそれだけではありません。もう一つは、ニュートリノの研究がそうであつたように、純粹科学や文化の創造に寄与するという役割です。私は常々「科学は文化である」とか「文化としての科学」と言っていますが、金儲けや経済的利得は二の次で、人間の精神的活動としての文化の一つとして科学を考えています。モーツァルトの音楽もゴッホの絵画もロダンの彫刻もモリエールの演劇も、これらの芸術の成果は文化であり、「無用の用」と言えるでしょう。これらが無くなっても私たちは生きていくのですが、これらが無い世界は精神的に貧しくて空しく感じられるでしょう。「X」で、物質世界から言えば「無用」ですが、精神世界には「用」なのです。

ここで「文化」というものが持つ意味を考えてみましょう。文化は人間の精神的活動の成果で、芸術のみならず芸能や学問や宗教や道德などが含まれ、科学もその一つです。文化とは、「あることが大事で、無くなれば寂しい」というもので、基本的には個人の心を満たすためのかけがえのない先人の贈り物と言えるでしょう。

文化のための行為ですが、まったく個人のレベルに閉じているのが「趣味」です。切手集めや小石集めや貝殻集めなどの趣味は、通常は利益や見返りを求めず、自分が楽しければよいというものです。それが文化の発祥であり、それはとても大事な人間の営みなのです。西洋では、珍しい植物や動物や鉱物を蒐集する趣味から、やがて蒐集物の共通する部分と異質な部分に着目して分類する

という「博物学」になりました。さらに、その各々の分野が独立して植物学・動物学・鉱物学というふうに分科して「科学」へと発展しました。その意味では、科学は趣味に出自（生まれ故郷）を持つ個人の楽しみであったのです。

趣味と文化の決定的な違いは、趣味は個人だけの楽しみですが、文化は社会性があるということ、つまり文化は多くの人々の支持によって広く共有されるものだということです。だから、文化は人々の支えによって維持できるもので、税金が使われたり、浄財で賄ったり、対価を求めたり、ボランティアの助けを得たり、というような形で社会と結び合うことになります。文化が健全に育ち社会に生き続けるためには、個人の努力と社会の受容が両輪とならねばならず、蓄積と発展のための努力が個人及び社会の双方に求められるわけです。こう考えると、文化こそ社会に生きる人間的行為であると言えるでしょう。私が「文化としての科学」と言うとき、科学は商売や経済の手先になるのではなく、「文化としての科学こそ人間の証明」であるということを言いたいのです。

他方、多くの科学者は、文化としての科学という抽象的な概念だけではなく、いつの日かそこから新しい技術が開発され、人々の生活に役立つようになると考えています。これが基礎研究の第三の「役立ち方」で、今はまだ何の役にも立たない純粋な基礎科学だけれど、そのうちに技術と結びついて、実際の物質に応用できるようになり、私たちの生活を豊かにするに違いない、と信じているのです。だから、焦らず長い目で見守って欲しい、と願っています。今確実に役に立つようになるとは言えないけれど、過去を振り返ってみれば何度もそんなことがあったのだから、またいつの日かそうなるだろう、という気持ちを持っています。

例えば、電子や原子の運動を記述する量子力学は、最初は人間の生活とは縁がない極微のミクロ世界の基礎的な物理法則でしかないと思われていました。しかし、1950年頃から、IC（集積回路）の発明を通じてコンピュータを動かす上での作動原理であり、X線や電子や陽子を用いた病気の治療や物質の診断に応用するための動作規則として働き、原子・分子レベルでの物質の振る舞いを記述しており、さまざまな新物質を作り出すための基本法則である、というふうに今や量子力学を抜きにしては成り立たない分野が数多く拓かれてきました。

あるいは、DNAは、最初遺伝の仕組みを考えるために導入され、もっぱら生命体の遺伝情報の成り立ちと伝達の謎を解くための便利な模型と考えられていました。しかし、研究が進むうちに、DNA上の塩基の並び方が解読され、その改変の技術が開発されるようになった現在では、遺伝子操作は当たり前になり、生物世界を根本的に変えてしまいかねない状況になっています。

このように、基礎科学⁴として始まった分野であつたけれど、広い範囲^{はんい}に応用分野が展開し、人間の生活に大きな影響^{えいきやう}を与えるようになったことが何度もありました。科学者は「いずれ役に立つから」と人々や政府に期待を持たせて、研究費を保証するよう求めているのです。

これとは対照的に、日本の産業力の活性化のためとして、政府や産業界は大学に基礎研究をすつ飛ばして、直ちにイノベーション（技術的革新）の種を提供するようしきりに要求しています。しかし、いくらイノベーションの掛け声をかけ研究費を投じて、最初からイノベーション狙いの研究は底が浅く、たいしたもののはなかなか生まれません。遠回りのように見えるけれど、「いつか役に立つ」としか言えない基礎研究から始めた方がよいのです。「急がば回れ」という言葉があるように、近道をしようとすると、かえって道がわからなくなることが多く、基礎研究という遠回りに見える道を選ぶ方が得策なのです。

その意味で、基礎研究⁵の第四の「役立ち方」があります。最初は実験段階で企業化や商業化はとても無理だけれども、じっくり時間をかけて基礎的な実験を積み重ねて技術開発に繋^{つな}げていくという方法です。この場合、取りかかった時点では困難な技術で簡単に応用できそうにはないけれど、「いずれ役に立つ」との信念の下で、慌^{あわ}てずに基礎研究に没頭^{ぼつとう}する、というものです。

その一例として、日本の企業が行った半導体のCCD（電荷結合素子）の開発があります。光を照射^{しやうしや}すると電子が飛び出してくる光電素子で、電子の輸送法を工夫^{くふう}して、素子のどの部分に、どのような色（波長）の光が、どのような強度で当たったか、をコンピュータで割り出せるように工夫したものです。その結果、基盤^{こはん}のようにCCDを縦横^{たてよこ}に格子状に並べた版上に像を撮^とることができ、それを刻々^{こくこく}とコンピュータに記憶することでデジタル撮影が可能になりました。素子の感度を上げることによって弱い光でも像が撮れ、格子上の網目^{あみめ}（メッシュ）の点の数を増やして詳細な像が撮影できるまでに進歩させました。この可視光用のCCDを世界で最初に作ったのは日本の企業で、ケータイのカメラなどに使われ、一時世界のカメラ市場を制覇^{せいぱ}しました。CCDの開発段階ではほとんど成功の見込みはなく、投資のムダではないかと非難されたのですが、その困難を乗り越えて成功したのです。

別の例では、ドイツの質量分析器^{しりやうぶんせきき}の開発があります。長い間、質量分析器は日本の企業が独占状態にあり、日本はそれに胡坐^{あぐら}をかいて改良しか行いませんでした。これに対抗しようと、ドイツはより精度の高い新しい方式を考え出し、その開発のために基礎研究から試作と実験を繰り返^くし15年もかけてようやく完成させ、ついに日本の技術を追い越^こしたそうです。最初は、まったく見込みが立

たなかったのですが、「いずれ成功する」と信じて開発を続けた結果なのです。

以上のように、当面の効用が第一で科学・技術が直ちに役に立つことを追求するよりは、長い目で見て基礎的な研究からしっかりと積み上げていく研究が重要であることがわかると思います。大学等の研究者はこのような信念を持っている人が多く、そのような科学者を大事にすることこそ、科学・技術を進めていく上での決定的なカギであるのです。ともすれば、近視眼的にすぐに「役立つ」ことを求めたがるのですが、それではかえって大きな成功を逃すことになるのではないのでしょうか。

また、科学の文化的な価値を大事にし、科学がもたらす新しい物質観や世界観を学び直し、より深く自然を理解することが科学の重要な役割であることを忘れてはなりません。科学・技術を通常の企業活動と同じとみなし、投資を集中すれば成果が上がるとする考えでは、本当のイノベーションに結びつかないでしょう。根本から問題を見直し、長い目で見てじっくり育てていくという姿勢こそが、科学・技術の育成に求められているのです。

（池内了^{いけうちりょう}『なぜ科学を学ぶのか』より）

*1 先のニュートリノに対する質問……これよりも前のところで「2002年に小柴昌俊氏^{こしばまさとし}がニュートリノ研究でノーベル賞を授与されたとき、記者から『ニュートリノは何の役に立つのですか?』と聞かれて、小柴氏はただ一言『何の役にも立たない!』と返答されたそうです。ニュートリノは、太陽内部や星の最終段階から多数放出され、星の進化に影響を及ぼすことは理論的に予想されていました。私たちが私たちの生活に何かの役に立つとは考えられない粒子です。」とある。

*2 蒐集………収集と同じ。

問一——線部「一般に受け取られている『社会の役に立つ』という意味」とありますが、この意味で考えた場合に適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 科学研究は経済論理や商業的利益につながる技術革新に貢献すべきだ。
- イ 科学研究は企業が売り上げを伸ばして成長することに役立つものだ。
- ウ 科学研究は人々の生活をより安定させるものでなくてはならない。
- エ 科学研究はその基礎的な研究に力をつくすことが求められるものだ。
- オ 科学研究は社会での実効的価値を生み出さなければならない。

問二 本文中の X に入るものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア いつも月夜に米の飯
- イ 独活うどの太木
- ウ 武士は食わねど高楊枝たかようじ
- エ 人間はパンのみにて生きるにあらず
- オ 蓼食たでくう虫も好き好き

問三 ―線部2「文化こそ社会に生きる人間的行為である」とありますが、そういえるのはなぜですか。最も適切なものを次から

選び、記号で答えなさい。

- ア 文化は、人間の精神的な活動から生み出されたものであるから。
- イ 文化は、個々人の心を満たすこの上なく大切なものであるから。
- ウ 文化は、利益や見返りを求めず楽しければよいものであるから。
- エ 文化は、その発展に個人的な努力を求められるものであるから。
- オ 文化は、多くの人の共感や理解を得て成立するものであるから。

問四 — 線部3「基礎研究の第三の『役立ち方』」、— 線部5「基礎研究の第四の『役立ち方』」とありますが、これらを説明したものと最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 研究している段階で過去を振り返り、すでに私たちの生活を豊かにすることにつながっている技術をさらに応用し新製品を開発するという役立ち方。

イ 研究している段階で焦らずに長い目で見守って欲しいと自分で言うほど不真面目な態度だが、いずれは真剣に取り組んで社会のためになるという役立ち方。

ウ 研究している段階でその成果が技術開発に結びつくかは分かっていないが、いずれ新しい技術が生み出され、社会の発展につながるという役立ち方。

エ 研究している段階で独占されている技術について、生活が便利で効率的になるように研究を積み重ねてイノベーションを起こすという役立ち方。

オ 研究している段階では上手くいってはいないが、必ず技術に結び付けるという目的を持って研究した成果が技術開発に直接結び付くという役立ち方。

問五 — 線部4「基礎科学として始まった分野であつたけれど、広い範囲に応用分野が展開し、人間の生活に大きな影響を与えるようになった」とありますが、これはどういうことですか。その内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 技術として何かの役に立つかわからないテーマを研究していたところ、それがさまざまなものを作り出す原理となつた。
イ 目立たず地味な自然の法則や根本的な原理の追究をしていたのだが、ある理論を発見し大きな業績を残すことができた。
ウ 余分な内容をそぎ落とし基本的な内容にしぼって探究していたが、そぎ落としした内容の中に意味のある現象を発見した。
エ 単純化された典型領域を徹底的に突きつめていたところ、人々の活動の役に立つ多くの道具を作り出すことになった。
オ 役立つものになることをめざしつつ実験や検証を繰り返すことで、それなしでは暮らしが成り立たない領域を開拓した。

問六 — 線部6「根本から問題を見直し、長い目で見てじっくり育てていくという姿勢」とありますが、それはどのようなものですか。その「姿勢」としてふさわしくないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間の生活を便利にし、暮らしを豊かにするための技術開発を優先する姿勢。
イ 人間の精神を豊かにし、文化として社会に受け入れられる科学を認める姿勢。
ウ 基礎科学の重要性を信じ、人々や政府にその研究費を保証するよう求める姿勢。
エ 最初は企業化が無理でも、実験を積み重ねて技術開発につなげていく姿勢。
オ 信念を持ち、基礎的な研究から積み上げようとする研究者を大事にする姿勢。

問七 本文に書かれている筆者の考え方と一致しているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 科学は人間の生活に密着した人工物を創造することが本来の目的なので、人々の生活に役立ってこそ科学の効能がより大きくなったのだと言える。

イ 科学研究は企業の活動と同じで、イノベーションという成果に結びつく可能性が高い分野に投資を集中し短時間に結果を出すことが求められる。

ウ 科学の文化的な価値を学ぶことで、より深く自然を理解できるようになるという流れを生み出すことが科学の重要な役割の一つであることを忘れてはいけない。

エ 「いずれ役に立つから」と人々や政府に期待を持たせて研究費の保証を求める科学者は実際には何の役にも立っていないので、研究は個人の趣味とするべきだ。

オ 本当のイノベーションを考えるのであれば、一見遠回りであったとしてもすぐに役立つ技術を求めるよりも科学者の研究を大切にするべきだ。

問八 本文では科学について書かれていました。あなたの知っている科学者を一人挙げ、その人物と功績について解答欄に収まるようにわかりやすく紹介しなさい。ただし、本文にある科学者と功績は除きます。

問九 本文では研究について書かれていました。栄東中学校では、毎年三年生が卒業研究を行っています。テーマは自由ですが、これまでの自分の体験から興味を持った事柄を取り上げ、深めていきます。

あなたが取り組んでみたいテーマを挙げ、それに関心を持つきっかけとなったあなた自身の体験を解答欄に収まるように書きなさい。

【五】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。字数指定のある問いは、句読点などの記号もすべて字数にふくみます。

竹青^{ちくせい}荘の面々は、芝生広場の陣地^{じんち}に倒れ伏^ふしていた。ゴール後に自分の腕時計^{うで}でタイムを確認する余裕があったものは、過半数を割った。ユキは、十人^{*1}の合計タイムを明確に把握^{はあく}する試み^{あきら}を諦めた。

集計^{*2}やインカレポイントの計算に手間取るので、結果発表は十一時ごろになる。全出場選手が走り終わってから、さらに一時間ほどは待つ必要があった。

¹ びみょう
「微妙なところだ」

清瀬^{きよせ}は脛^{すね}をアイシングしながら、冷静に計算した。「俺たちの順位を平均すると、たぶん八十位台半ばだろう。ボーダーライン上だな」

「同じくボーダーライン上にいる大学の、インカレポイントによっては……」

ニコチャンは難しい顔で空^{くう}をにらむ。

「予選落ちもありうるね」

とユキは言った。

そんなあ、と双子^{ふたご}が嘆^{なげ}く。神童とムサは静かに、それぞれの先祖と氏神に祈っているようだ。キングは芝生をむしった。王子はぴくりとも反応せず、うつぶせに横たわったままだ。取り囲む葉菜子^{はなこ}も商店街の人々も、²うかつな励^{はげ}ましもできず、ただただ結果を待つばかりだ。

走^{かけ}はふと、清瀬の手もとを見た。クーラーボックスに入れて持ってきた氷が、ビニール袋のなかで溶けかかっている。

「氷をもらってきます。あそこの売店で、わけてもらえるかもしれない」

重苦しい空気から逃^{のが}れたくて、走は立ちあがった。ムサも同じ気持ちだったのだろう。

「私も行きます」

と言って、ついてきた。

芝生広場を横切り、赤い屋根の売店を目指す。予選通過を確信できた大学は、選手表情ですぐわかる。緊迫感を漂わせているのは、寛政かんせいのようにボーダーライン上の大学だ。もつと下位であることが歴然としている大学は、総じて穏やかに結果発表を待っていた。なかには、女子マネージャーが作った重箱の弁当を、仲良くつついているチームもある。

いろいろだな、と走は思った。このひとたちにとっては、予選会に出る、ということが目標なんだ。最初から結果はわかりきっているから、走り終わったらピクニックと同じようなイベントにして、楽しんでしまう。それが悪いわけではないけれど、俺たちとはちがう。走はそう感じた。

俺は、予選会で終わるなんてごめんだ。もつと高みを見たい。もつと速く、強いチームになって、箱根駅伝で戦いたい。そのため練習をしてきたし、そのためならこれからも、もつと練習する気持ちがある。

「どうなるでしょうね、走」

ムサが心配そうに話しかけてきた。

「行けますよ、箱根に」

走は請けあった。熱いマグマが、腹の底に湧いてくる。今日だって全員が全力で予選会を走った。負けるわけがない。力のこもった言葉に、ムサは目を見開いた。

「走はなんだか、強くなったようです」

「そんなことはないですよ」

走は首を振った。「俺たち、けっこう頑張つて走ったじゃないですか。だから大丈夫だと思うだけで」

ムサはうなずいた。

「そうですね。私たちは箱根に行くのでした。みんなで」

ムサが言うとおとぎ話の幸福な結末のようにも、信頼のおける予言のようにも聞こえるのだった。

走とムサが、「氷がほしい」と頼んだところ、売店の店員は快くわけてくれた。手ぶらで来てしまったので、店員は紙コップに氷を入れる。「うっかりしていましたね」と話すムサの背後を、見物客の一団が通りかかった。

「また黒人選手がいる。ずりいよなあ、留学生を入れるのは」

「あんなのがゴロゴロいたら、日本人選手はかないっこないもんな」

聞こえよがしな囁きに、ムサはサツと顔を強張らせ、走は振り返って抗議しようとした。

「いいんです、走」

ムサが押しとどめる。「今日だけでも、ああいう意見をずいぶん耳にしました」

「あんな勝手なこと、言わせておけないですよー」

走はなおも、遠ざかっていく見物客を追おうとしたが、ムサに腕をつかまれた。

「喧嘩はいけません。あのひとたちが言っているのは、陸上の才能を見込まれてやってきた留学生のことでしょう。私は恥ずかしいです。自分が恥ずかしいです。彼らには区別がついていないようですが、私の足は速くない。やつかまれるほどの才能もない、ただの留学生だからです」

「そんなこと、関係ない！」

走は憤然とした。「ムサさんも、俺も、今日、一位と二位を取ったひとたちも、同じコースを走ったことには変わらないですよ。」

それをあんな……」

どう言っているのかわからなかったが、走は悔しかった。ともに寝起きするムサも、自分自身も、会話を交わしたこともない他大
学の留学生も、まとめて侮辱された気分だった。そうだ、うまく表現できないけれど、これは走りに真剣に向きあうものに対する侮
辱だ。走は肩をいからせた。

「蔵原の言うとおりだな」

と声が出た。振り向くと、頭をつるつるに丸めた、ひよる長い男が立っていた。

「だが、放っておけ。あいつらは、走ることがわかっていない素人だ」

男は走とムサが見ているままで、売店でウーロン茶を買った。どこかで会ったことがある。走は警戒を解かないままに、あわただしく記憶を探った。この、よく光る頭には見覚えがあるぞ。

「六道大の藤岡！……さん」

走は解答を導きだした。箱根で連続優勝している六道大学。そのキャプテンの、藤岡一真だ。春の東体大記録会で顔を合わせたきりだが、どうしてこのひとが、予選会になんか来てるんだらう。

走の疑問を読み取ったのか、

「敵状視察だよ」

と藤岡は言った。「寛政大はずいぶん強くなったな。箱根まで出てきそうじゃないか」

藤岡には王者の余裕と貫禄があった。

「おかげさまで」

走は生来の負けん気が頭をもたげ、昂然と答えた。藤岡は、一步も引かぬ視線を走と激突させてから、ムサを見た。

「ああいう輩は、気にしないほうがいい。ばかげた意見だ」

「どういふところがですか」

茶を飲みながら去っていくとする藤岡を、走は呼びとめた。見物客の、ムサへの言いぐさには腹が立つ。だが、どうして腹が立つのか、はっきりと把握できなかった。このもやもやの原因がどこにあるのか、藤岡はわかっているようだ。

「教えてください」

と走は頼んだ。藤岡は足を止め、おもしろそうに走を眺めた。「いいだろう」と、走とムサに向き直る。

「ばかげた部分は、少なくとも二つある。ひとつは、日本人選手が太刀打ちできないから、留学生をチームに入れるのはずるい、という理屈。じゃあオリンピックはどうするんだ。俺たちがやっているのは競技であって、お手々つないでワン・ツー・フィニッシュする幼稚園の運動会じゃない。身体能力に個人差があるのは、当然のこと。しかしそのうえでなおかつ、スポーツとは平等で公正なものなんだ。彼らは、同じ土俵で同じ競技を戦うとはどういうことかを、まったくわかっていない」

ムサは黙って、藤岡の言葉に聞き入っている。走は、静かに繰り返される藤岡の分析に、ただ圧倒されていた。

「彼らのもうひとつの勘違いは、勝てばいいと思っているところだ」

と、藤岡はつづけた。「日本人選手が一位になれば、金メダルを取れば、それでいいのか？ 断固としてちがうと、俺は確信している。競技の本質は、そんなところにはないはずだ。たとえ俺が一位になったとしても、自分に負けたと感じれば、それは勝利ではない。タイムや順位など、試合ごとにめまぐるしく入れ替わるんだ。世界で一番だと、だれが決める。そんなものではなく、変わらない理想や目標が自分のなかにあるからこそ、俺たちは走りつづけるんじゃないのか」

そうだ。走は、もやもやが晴れていくのを感じた。こういうことに、俺は引っかけり、怒りを覚えたんだ。藤岡はすごい。走の感じたこと、言いたかったことを、いともたやすく解きほぐして言葉にしまった。

「あいかわらずだね、藤岡」

と声がした。いつのまにか清瀬が、走とムサの背後に立っていた。

「部外者が余計なことを言った」

藤岡はストイックな態度で清瀬に一礼し、今度こそ去っていく。

「⁸いいや、助かるよ」

清瀬が言うと、藤岡は肩越^{かたこ}しに振り返り、口の端に笑みを浮かべた。

「なかなかの人材をそろえたようじゃないか」

「まあね」

「箱根で待つ」

最後まで、王者にふさわしい毅然^{きぜん}とした態度で、藤岡は木々のあいだに消えていった。涅槃^{ねはん}で待つ、みたいだなとか、ここまで来たのに結果発表は見えていかないのかな、などと走は思ったが、あわてて藤岡の背中に向けて頭を下げる。ムサも、「ありがとうございませう」と言つて深々とお辞儀をした。雷雲を払うような藤岡の言葉が、走とムサに活力を抱かせた。

「袋も持たずに行ってしまうから、追ってきた」

清瀬はビニール袋を掲げてみせた。走は「すみません」と受け取り、店員からもらった氷を袋に移す。清瀬はもう、脚を引きずることなく歩いている。

「藤岡さんというのですか。すごいかたですね」

とムサは感激したふうだ。

「箱根で勝ちつづけるには、精神力と本当の意味でのかしこさが必要だってことだろう」⁹

清瀬はちよつと笑った。「まあ、あいつは昔っから、妙に落ち着いてたけどね。あだ名が『修行僧』^{しゆぎやうそう}の高校生って、ちよつといやだろ」

走とムサは顔を見合わせ、たしかに、とうなずいた。

ゴール地点近くの大きな掲示板に、見物客や選手たちが集まりはじめている。

「そろそろ発表だな」

「行きましよう」

ムサは小走りになって、寛政大の陣地へ戻る。走は清瀬のペースに合わせ、ゆっくりと芝生を踏みしめた。どんな結果が出るか気になるが、ここまで来てあがいても、もうどうにもならない。それよりもいま、走の心を占めているのは、藤岡の姿だった。

思いを言葉にかえる力。自分のなかの迷いや怒りや恐れを、冷静に分析する目。

藤岡は強い。走りのスピードも並ではないが、それを支える精神力がすごい。俺がただがむしやらに走っているときに、きつと藤岡は目まぐるしく脳内で自分を分析し、もつと深く高い次元で走りを追求していたのだろう。

¹⁰走はうちひしがれると同時に奮い立つという、奇妙な興奮を味わった。

俺に欠けていたのは、言葉だ。もやもやを、もやもやしたまま放っておくばかりだった。でも、これからはそれじゃあだめだ。藤岡のように、いや、藤岡よりも速くなる。そのためには、走る自分を知らなければ。

それがきつと、清瀬の言う強さだ。

「俺、わかってきたような気がします」

走はぼつりと言った。

「そうか」

清瀬は満足そうだった。

(三浦^{みうら}しをん 『風が強く吹いている』より)

*1 十人……………清瀬・蔵原走・ユキ・ニコチャン・双子(ジョータ・ジョージ兄弟)・神童・ムサ・キング・王子の十

人。十人とも竹青荘に住む寛政大学の学生。四年生の清瀬がチームのリーダーで、一年生の蔵原走はチームのエース。

*2 インカレポイント……………大学対抗の陸上競技選手権で好成績を収めると獲得できるポイント。箱根駅伝出場に有利になる。

問一 ―線部1「微妙なところだ」とありますが、どのような点が微妙なのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 全出場選手が走り終わってから、さらに一時間ほど待たなければならない点。

イ ゴール後にみんなが倒れ伏していて、十人の合計タイムを正確に確認できない点。

ウ 集計やインカレポイントの計算に手間取り、結果発表が十一時ごろになる点。

エ 予選会に出場した全選手の順位を平均すると、八十位台半ばになってしまう点。

オ 自分たちの順位の平均を見ると、予選を通過するか予選落ちするか分からない点。

問二 ―線部2「うかつな励まし」とありますが、この場面では、それはどのような言葉だと考えられますか。十五字以内で答えなさい。

問三——線部3「このひとたち」とありますが、走は「このひとたち」とはどういう点がちがいますか。三十字以上四十字以内で答えなさい。

問四——線部4「走は憤然とした」とありますが、このときの走の心情として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 見物客が黒人の留学生をばかにした発言をしたので、日本人として恥ずかしいと感じている。
イ 黒人の留学生をチームに入れることを問題視され、その何が悪いのかと疑問を抱いている。
ウ 走りとは無関係なことを持ち出す批判は、真剣に走る人間をばかにしていると腹を立てている。
エ ムサが陸上留学生だと誤解され、チームの苦労も知らずに黒人批判されて悔しいと思っている。
オ 競技に参加していない素人が、軽い気持ちでチームの戦略に口を出すことに怒りを覚えている。

問五——線部5「おもしろそうに」とありますが、藤岡はなぜおもしろそうなのですか。その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 敵である自分にも教えを乞おうとする、走ることに対してまっすぐな気持ちを持つ走に興味を覚えたから。
イ 王者の余裕と貫禄と接したところ、走が負けん気の強さを出してきて、自分に食ってかかってきたから。
ウ ばかげた意見だと断言したら、それに腹を立てて、どこがばかっているのか説明しろと要求してきたから。
エ 見物客の言葉に腹を立てていながら、その理由が分かっていないらしい様子に、優越感を感じたから。
オ 王者の自分に挑んできたのは意外だったが、論破する自信があったので、勝負を楽しもうと考えたから。

問六 — 線部6「日本人選手が太刀打ちできないから、留学生をチームに入れるのはずるい、という理屈」、— 線部7「勝てば

いいと思っっているところ」とありますが、それらを「ばかげた意見」「勘違い」と藤岡が言う理由は何ですか。次の文は、その理由をまとめたものです。 A に当てはまる言葉を十五字以内、 B は三十五字以内でそれぞれ本文中から探し、初め

と終わりの五字をぬき出して答えなさい。

「日本人選手が太刀打ちできないから、留学生をチームに入れるのはずるい、という理屈」は、「勝てばいいと思っっている」から出てくる発想である。それは、そもそも A だということを理解していない人の考えである。だから藤岡は「ばかげた意見」だと言ったのだ。

また藤岡は競技について、B のだ」と考えているので、競技を「勝てばいい」とするのは「走ること」がわかっていない素人」の勘違いだと断言している。

問七 — 線部8「いいや、助かるよ」とありますが、なぜ清瀬はそう言ったのですか。その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 負けん気の強い走をだまらせ、見物客と喧嘩をしないように納得させてくれたから。

イ 走が心を感じたもやもやを晴らしてくれて、走の良き理解者になってくれたから。

ウ 答えるのが難しかった走の疑問に明快に答えてくれたので、肩の荷が下りたから。

エ 藤岡の話は、走のランナーとしての精神的成長をうながすものだと感じたから。

オ 陸上留学ではなかった黒人のムサが、今後は自信を持って走れると確信したから。

問八 — 線部9「本当の意味でのかしこさ」とありますが、それはどういうことですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア どうしたら箱根駅伝で勝ちつづけられるのかを長期的・計画的に考えられるということ。
イ 何か言われてもその正誤を判断でき、走ることに關してゆるがない考えがあるということ。
ウ 敵味方關係なく他人を尊重することができ、常に落ち着いたふるまいをするということ。
エ 駅伝は団体競技なので、自分のことだけでなくチームの仲間の支えになれるということ。
オ 自分のなかに迷いや怒りや恐れがあつても、それに打ち勝つために冷靜を保てるということ。

問九 — 線部10「走はうちひしがれると同時に奮い立つという、奇妙な興奮を味わった」とありますが、このときの走の心情を五十字以上七十字以内で説明しなさい。

東大特待

解答用紙
(50分)

(50分)

氏名

受験番号

整理番号

得点

A	
一	
1	
2	
3	
4	
5	

B	
二	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

c
三
1
2
3
4
5
6
7
8

D	
問一	
問二	
問三	

E	
	問四 (第三)
	(第四)
	問五
	問六
	問七

F
四
問八

G

問九

四			
問九	問八	問四 (第三)	問一
			問二
		(第四)	
			問三
		問五	
		問六	
		問七	

H

問 →

[illegible][illegible]

K	
五	
問六	
	A
	初め
	終わり

[illegible][illegible]